

初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は
珮後の香を薰ず。曙の嶺に雲移り、松は羅を掛けて蓋を傾け、
夕の岫に霧結び、鳥は穀に封めらえて林に迷ふ。庭に新蝶舞
ひ、空に故雁帰る。ここに天を蓋とし、地を座とし、言を一室の裏
に忘れ、衿を煙霞の外に開く。淡然と自ら放にし、快然に自
ら足る。

【大体の意味内容】 初春正月は令らかな靈氣に満ちて、風は和かにそよぐ。梅は鏡に
映える女の白粉のように白く、蘭は帯に珮いた匂い袋のように薰っている。夜明けの嶺
に雲が移ろい、それはまるで松が薄絹を蓋としているようなありさまだ。やがて夕に山の
くぼみから霧が立ち込めてくると、鳥は白絹にからめとられたように林の中をさまよう。
庭園に何かひらめいているのは今年の蝶なのだろうか。空には去年来た雁が帰ってゆく。
これは夢想の世界なのか、天を笠とし地が座席となったようだ。言葉は邸宅の内へ忘れ去
り、胸襟は立ちこめる霞の外へ開く。自分という一個の輪郭が曖昧になり、雲のごとく
静かに淡然と解放されていく。それが何の違和感もなく、快然として充ち足りた心地な
だ。

覚えてますか、四月一日の新元号発表の際、漢字より先に「れいわ」という音を発声してくれ
ました。「靈和」のイメージがはあっと広がりました。あれはいいことをしてくれました。その
あと「令和」という文字を示されて、「は？」と、思い切りの違和感を感じつつも、「まあ、妥当な
画数が」と無理に納得しました。確かに「れい」で始まる元号は千三百年前の「靈龜」(715-
717)「の」だった二年間以来例がありませんし、「靈」では画数も多すぎると何しろ日本だけでな
く世界中が怖がるでしようから、「令和」でカムフラージュしておく方がよいでしよう。

今回の文章は、その「令和」の典拠とされている『万葉集』巻第五「梅花の歌三十二首」の序文です。政府の発表でもその後のマヌ「ミ報道でも、最初の一文しか引用しませんが、この序文全体を読み、その後の和歌群を一通り読むと、この元号の考案者の意図がなんとなく見えてきました。

結論から言いつつ、やはり「霊和」なのです。

この序文を読むと、大宰府の帥（長官）大伴旅人の邸宅で宴会を開き、梅の花に関する歌を詠みあつた話とされています。のんきな場面と思われるかもしれませんが、そうではありません。

武将としての功績もあった大伴旅人は、その武威を警戒されて、大和（今の奈良県）から遠く隔たった筑前国（現福岡県）の大宰府の長官として、老年に至るまで中央政界からは遠ざけられます。藤

原氏を中心とした、物部氏や蘇我氏のグループによる陰謀です。こうしてその旅人を中心として形成されたサロンは、『老』の影響も受けた反権力、反政府の気概に満ちたものだったのです。

命あるものの全てが、その生命の輝きを發揮し始めるのが春です。そしてどんなに厳寒の中に在っても、その春の気を真っ先に感じ取って花咲く霊木が、梅です。梅の開花に呼応して、雲がこの世の自然界を覆い、そうした霊気の中で、旅人たちもこの世の秩序から逸脱して霊的な存在へと昇華してゆへ。一個の人間としてのちっぽけな輪郭が溶解して、宇宙そのものと共鳴一体となる。人間界の言葉を忘れ、この小さな身体を雲散霧消させようという境地は、確かに老子莊子の「道・徳」原理に通じる。同時に、一切の権威・権力から自由であることとする宣言でもあります。

同時に、これより後世の平安時代に成立した「竹取物語」かへや姫の物語（「の元型がここにあったのだと思われまます。

この梅の花三三首のあと、関連する歌が挙げられますが、「故郷を思う歌」「一首が、「雲に飛ぶ薬」をテーマにしています。この「雲に飛ぶ薬」という仙薬（霊薬）は、服用することによって「雲に飛ぶ」だけでなく、^お變若^おちる、すなわち若返り不老長生するといつのです。「竹取物語」のラストシーン、かへや姫が不老長寿の薬を天皇にプレゼントし、自分は月世界へと飛翔する仙薬を喫んで、地球界でのことをすべて忘れてしまうという場面に、見事に受け継がれていたのだと気付かされました。

反権力とは、既存の権力体制を否定することではなく、その権力体制を包摂する宇宙になること、すなわち「霊和」というダイナミズムなのでしよう。

現政府は、こうした背景（元号考案者の意図も含めて）を全く気付いていない。新天皇も、そこまでは知らないかもしれませんが、おそらくは元号考案者の意図と同じ意図をもって、これからの「象徴天皇」のあり方を、追求してゆくのだからと考えられます。上皇平成天皇が「沖縄重視」の姿勢を貫くことで政府権力と壮絶な戦いをしてきたように…

今度トランプくんが日本に来て、新天皇皇后両陛下を手玉に取るつもりです。案外、きちんと英語で対応する夫妻の、しかもトランプくんの過去の苦勞をねぎらひのお言葉で、七十歳越えた赤ん坊が泣きごちやへるシーンも見られたりして。となったら世界が驚倒するべからう、見物ですな。